

国 語

▼2026年度入試・大問別出題分野

入試区分	出典	本文	設問
特別奨学生入試	竹端寛 『ケアシケアされ、生きていく』	日本社会では、一人一人の尊厳や権利にリミッターがかけられている。それに無意識であると、自分自身に注意や意識を向けられないだけでなく、他者への注意や意識も限定的になってしまう。それは、共に思いやる社会とは真逆な社会のあり方である。 約3000字(標準)	漢字の書き取り(2) 空所補充(4) 内容説明(2) 理由説明(1) 脱文挿入(1) 本文内容合致(1) 解答数11問(標準)
	成田龍一 「歴史とは何か ― 危機の意識と変革の可能性」(『世界思想』2023年50号より)	日本史を、世界史の事象と総合して新たな歴史像を作り上げるためには、「事実」の新たな「解釈」が必要である。「問い」と「対話」が必要な「歴史総合」は、こうして暗記科目としての歴史から脱却するのである。 約4200字(標準)	漢字の書き取り(2) 空所補充(4) 内容説明(3) 脱文挿入(1) 本文内容合致(1) 解答数11問(標準)
	知識問題		漢字の読み取り(2) 文法問題(3) 慣用句問題(10) 解答数15問(標準)
一般入試前期	宇野重規 『民主主義とは何か』	独立国家の連合体であるアメリカ合衆国は、それぞれが固有の憲法を持っていたため、合衆国憲法を制定するにあたりどうしても妥協が多く含まれることになってしまった。 約2700字(標準)	漢字の書き取り(2) 空所補充(4) 内容説明(1) 理由説明(2) 脱文挿入(1) 本文内容合致(1) 解答数11問(標準)
	伊藤昌亮 『炎上社会を考える 自肅警察からキャンセルカルチャーまで』	バイトテロが騒動になるのは、投稿者が「悪いこと」をついしてしまうから、であると同時に、叱責者が「良いこと」をしすぎてしまうから、でもある。その根底には、レアな経験にたまたま遭遇するのをただ待つのではなく、経験を自ら作り出そうとする自己呈示の欲求が存在している。 約3800字(標準)	漢字の書き取り(2) 空所補充(4) 内容説明(2) 理由説明(1) 脱文挿入(1) 本文内容合致(1) 解答数11問(標準)
	知識問題		漢字の読み取り(2) 文法問題(3) 慣用句問題(10) 解答数15問(標準)
一般入試後期	中村桂子 「私のなかにある38億年の歴史 ― 生命論的世界観で考える」(『科学は未来をひらく〈中学生からの大学講義〉3』より)	今までの科学では解明できない新しい問題はたくさんあるため、「世界を機械として考える」という従来の思考では、自然を捉えきれないことを自覚すべきである。 約2300字(標準)	漢字の書き取り(2) 空所補充(4) 内容説明(3) 脱文挿入(1) 本文内容合致(1) 解答数11問(標準)
	駒村圭吾 『主権者を疑う 統治の主役は誰なのか?』	自己の存在証明のために、実在する他者が行っているリアルなデモを活用するという点で、ネット上の言説活動にとってデモは、独特の信用確保手段として機能しているといえる。 約3800字(標準)	漢字の書き取り(2) 空所補充(5) 内容説明(2) 理由説明(1) 本文内容合致(1) 解答数11問(標準)
	知識問題		漢字の読み取り(2) 文法問題(3) 慣用句問題(10) 解答数15問(標準)

国 語

▼傾向

《出題形式》 大問Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで構成されている。すべて現代文であり、古文、漢文からの出題はない。大問Ⅰ・Ⅱでは読解問題からの出題が基本であるが、一部、意味などを問う知識問題も出題されている。これに対し、大問Ⅲでは漢字の読み取りや文法（品詞）、四字熟語・慣用句などといった知識問題のみからの出題となっていて、いずれの大問もマーク式である。今年度の解答数は、特別奨学生入試・一般入試前期・一般入試後期、いずれも全 37 問（Ⅰ 11 問・Ⅱ 11 問・Ⅲ 15 問）であった。

《出題内容》 特別奨学生入試 Ⅰ 竹端寛『ケアシケアされ、生きていく』

約 3000 字（標準）

Ⅱ 成田龍一「歴史とは何か―危機の意識と変革の可能性」（『世界思想』2023 年 50 号より）

約 4200 字（標準）

Ⅲ 知識問題

一般入試前期 Ⅰ 宇野重規『民主主義とは何か』

約 2700 字（標準）

Ⅱ 伊藤昌亮『炎上社会を考える 自肅警察からキャンセルカルチャーまで』

約 3800 字（標準）

Ⅲ 知識問題

一般入試後期 Ⅰ 中村桂子「私のなかにある 38 億年の歴史 ― 生命論的世界観で考える」（『科学は未来をひらく〈中学生からの大学講義〉3』より）

約 2300 字（標準）

Ⅱ 駒村圭吾『主権者を疑う 統治の主役は誰なのか？』

約 3800 字（標準）

Ⅲ 知識問題

いずれの日程もマーク問題のみで構成されていた。また、大問Ⅲは例年と同じで、漢字の読み取りや品詞、慣用句などの知識問題が並んでいた。ただし、読解問題である大問Ⅰ・Ⅱにおいても、漢字の書き取りや語句の意味、文法的説明や文学史などといった、知識を必要とする問題が含まれることもある。年度によって多少の変動はあるが、総合的な学習が必要であることに変わりはない。

《難易度》 読解問題、知識問題とも基本から標準レベルである。本文内容の正確な読み取りができ、知識があれば高得点が期待できる。

▼対策

年度によって多少傾向が変わるのは当然だが、かといって、文章を読んで傍線部や設問が想定している箇所を正確に理解するという行為に慣れていないと、国語で高得点を取ることができないということには変わりがない。その際、知らないテーマで書かれた文章だと読みにくさを感じるだろうから、なるべく多くの文章を読み、普段は考えないテーマについて意識的に触れるようにしておきたい。ただし、近年の受験生は漢字や意味などを問う知識問題で失点しやすい傾向にある。つまり、こうした知識問題での失点を防ぐことも重要である。したがって、必ず漢字や四字熟語・慣用句などの知識問題が載っているドリルや問題集等を解き、語彙力を増やしてほしい。その際、知らない表現を調べておくとともに効果的である。

▼重要ポイント

大学に入ってから、また、社会に出てからも必要とされる基本的な語彙力と読解力が試されている。特に現代文では、普段は考えない事柄が題材になるだけでなく、日常では使わない言葉が用いられることもある。したがって、知らない考え方や言葉であるからといって拒絶しながら読むのではなく、他者の主張を柔軟に理解しようとする姿勢が必要である。そのためにも、普段から文章や新聞を読んで、多様な考え方を知っておく必要がある。